

ミヤマカラマツ・ナガバカラマツ (キンポウゲ科) の北海道分布

千歳市 五十嵐 博

はじめに

ミヤマカラマツ *Thalictrum tuberiferum* Maxim. は、キンポウゲ科カラマツソウ属の多年草で北海道～九州の山地溪流沿いなど湿った斜面に生育する。小葉は幅と長さが同長で浅い切れ込みがある (梅沢 2018、図 1)。一方、ナガバカラマツ *T. integrilobum* は分布がアポイ岳周辺の固有種で、林内や沢沿いに生育し、小葉は長さ 2cm 前後の線状長楕円形で先は尖らず全縁である (図 2) 点がミヤマカラマツとの違いである (梅沢 2018)。

門田 (2016) ではミヤマカラマツは本州・四国・九州に分布し、温帯林の林縁や林床、溪谷の湿った岩上、ときに高山草原に生えるとし、朝鮮半島・中国東北部・ロシア沿海地方にも分布するとあるが北海道分布の記載がない。今回、標本庫調査によりミヤマカラマツはナガバカラマツと混同された経緯があり、分布の混乱が確認されたのでこれらを整理して報告する。

以降、() 付地名は国土地理院発行 2.5 万分の 1 地形図名を示す。

文献調査

伊藤 (1981) のミヤマカラマツは浦河町の撮影である。撮影した梅沢俊氏に確認したが古い撮影なので詳細な産地は記憶にないとの返事だった。標本はなく産地詳細不明であり (浦河) とした。

伊藤ら (1994) のミヤマカラマツの分布は狩場山系、胆振、日高山系、後志、余市山系無意根山 (無意根山)、根室である。ナガバカラマツの分布支庁は渡島、胆振、日高である。

原 (1979) のミヤマカラマツ産地は登別、伊達であり、原松次標本目録 (高橋ら 2008) から登別は川上町 (鷲別岳)、伊達は天狗岩 = 谷藤川 (稀府) と思われる。原 (1981) のミヤマカラマツは登別市の撮影である。登別市は前記した川上町 (鷲別岳) である。



図 1 ミヤマカラマツ 2020.6.12 白老町森野林道



図 2 ナガバカラマツ 2016.5.14 様似町幌満峽